

設定理由

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、教育の質の向上には、こども理解を深めていくことから始まる。こどもを取り巻く身近な環境には、園だけではなく家庭と地域も挙げられ、地域には小学校も含まれる。それぞれの教育の方法の違いを理解しながらも、同じ願いを持ち、こどもの姿を見取りながら、こども理解を共有していくことが大切であると考え。そこで本園ではどの環境とも滑らかに、かつ継続的に繋がっていくための「連携」を検討していくことにした。

研究概要

本園の保育実践や園内研修を通して、保育者同士、保育者と保護者の「連携」の充実のためには、非認知能力を含めたこどもの総合的な育ちの共通理解が大切であることに気づいた。そこで、遊びから見えるこどもの育ちを写真と文章で記録した「ラーニングストーリーBOOK」の作成に取り組んだ。保護者との「連携」では、ブックを活用しこどもの姿を直接会って伝えるようにしている。また小学校との研修会や見学会を実施し、こどもの育ちを捉えることで幼児教育の独自性を再認識したり、それぞれの教育の方法の違いなど相互理解を深めたりなど、「連携」が進んでいる。

幼稚園での取り組み

1 保育記録

カリキュラムマネジメントを行っていく上で必要な、保育の基本であるこどものあそびの姿を5領域や10の姿が育つプロセスと見合わせながら見ていく。

- ・おもしろかったエピソードの記入
- ・マップ
- ・ウェブ

⇒ こどもの姿を「共有」する

2 クラスだより・保育予定表

月のねらいに沿ったエピソードと育ちの姿を写真と文章で伝えるポートフォリオの形式で作成。保育予定表では、月のねらいを家庭でも意識してもらえよう、保育者がどのようなこどもの姿からねらいを構成し、保育をしているのかを保護者に伝える。

◆保護者の声（クラスだより）

- ・お友達と協力して物事を進める姿や、譲ったり、助け合ったりする姿に成長を感じています。
- ・写真とその時の様子が書いてあるので、幼稚園で何をしているのかがわかりやすいです。
- ・我が子だけでなく、いい表情を見るととても安心します。
- ・家ではみることのないお友達との関わり方やあそび方を知ることができました。
- ・こどもの考えたあそびからお友達と一緒にあそびを展開させている場面があり、成長を感じています。

◆保護者の声（保育予定表）

- ・はさみなどの決まりごとを家でも共有してみました。
- ・ねらいは毎月意識します。幼稚園と同じようにはいかないことも多いですが、なるべく合わせられるようにしたいと思っています。
- ・園の取り組みを知って勉強になっています。

3 ラーニングストーリー

ニュージーランド発祥のラーニングストーリー。こどもたちの園での成長をより身近に、より分かりやすい形で伝えるために写真とともに、その写真のあそびの場面から見られた育ちの姿を文章で記入。「クラスだより」、人間関係に着目した「人とのつながり」、表現の分野に着目した「こどもの世界」、長期休みの思い出から見られた育ちの姿を保護者が記録した「おもいでページ」などと一緒にファイリングし、年度末には1年間の育ちの姿が1冊の本『ラーニングストーリーBOOK』となる。

◆保護者の声（家庭での様子）

- ・こんなことをしたんだねと見ながら話したら、思い出してその時の様子を話してくれました。
- ・できることもできないこともあって当然で、こどもの様子を見つつ、先生方と見守り応援してあげられたらと思います。
- ・自分のことより困っている子を助けてあげられていることを知り、あなたのそういう優しさはとても素敵よと話しました。
- ・食事を頑張っていると聞き、例え食べることができなくても頑張りを褒めるようにしています。
- ・親が思っている以上に成長していることを知りました。

◆保護者の声（こどもの変化）

- ・助け合ったり、痛みを分け合ったりすることができるようになったと思います。
- ・家でも困ったことやできないことがあった際に、親に助けを求める前に考えて解決しようとする機会が増えました。
- ・担任から話を聞いて、改めて家族にも認められて、自分はこれでいいんだな、というような自信を新たにもっているような印象。
- ・ラーニングストーリーをもとに、園の様子をいつもより話してくれていると感じています。

【研究1年目の問題点】

- ・夢中になっていると表情が見えないときがあることや残したいエピソードでもその瞬間の写真がないと、ラーニングストーリーにして伝えることができない、偏りなくこどもの姿を見ることができているのかという問題点があった。
- ・ラーニングストーリー作成の問題点に合わせて、日誌・マップ・ウェブの3つの保育の記録方法は、目的別にさまざまな記録を取ることができる一方で、内容が重複して記録することになるという課題も見受けられた。
- ・日誌を共有することができず、お互いがどのような保育をしているのか分かりづらい状態であった。



【研究2年目の改善点】

- ・2021年度からITを活用し、デジタル記録を導入。記録をシンプルに一本化することで、重複がなくなり教員間で保育連携を取りやすくなった。
- ・全クラス、ラーニングストーリーを1日ひとりデジタル記録することで日誌とし、それを短期指導計画と位置づけ、労務改善も行った。

4 幼児生活調査表

幼児生活調査表を有効に活用し、こども一人ひとりを尊重し、その子らしさやその子の良さを育てていくにはどのようなことを聞けばよいのか、こどもの居場所を見つけてあげるためにはどのような内容を聞けばよいのかを考えながら改善し、入園・進級時における保護者との連携を図った。

小学校との取り組み

1 スタートカリキュラム

朝の時間を柔軟に設定する 15 分のモジュールを「にこにこタイム」を導入。

小学校の旧スタートカリキュラムのねらいでは、第 2 週目から「きまりを守って」というねらいを設定していたが、きまりを守る前に学校の様子を知ること、学校は楽しいと思えること、関心を持つことができることを目標とし、ねらいを変更。

こどもの実態を伝えることがカリキュラムを作成する上で必要不可欠であるということがわかり、常にこどもの実態の上で成り立つものであることを意識した。

2 持続的な幼小接続及び幼小連携についての概要 *参考資料 次ページ

- ① 私立幼稚園と公立小学校で連携していく場合、お互いの状況をお互いが受け入れ、理解し合うことが求められる。少しずつでもつながり、少しずつでも変わっていくために「持続的な」連携をまず心がけた。
- ② 今までのつながりも大切にし、「幼小接続」と「幼小連携」の違いを再度認識した。2つの両輪で進んでいくことが出来るよう意識した。

3 児童生活調査表

小学校が入学の際に調査していた児童生活調査表。安全の確保が第一優先ではあるが、幼稚園で一人ひとりの良さを認め伸ばしてきたこどもたちを引き継いでもらうためには、その子の良さを知っていただくことが必要と考え、1年生の学年主任の先生に「児童生活調査表」に“保護者から見たこどもの良いところ”を聞く項目を増やしてほしいと交渉し、2021年度から変更していただいた。

研究のまとめ

幼稚園内での取り組みでは、保育の記録方法の改善を行いこどもの育ちの姿を共有することで、保育者同士の「連携」を深められ、保育者がともにこどもの育ちを見取る力を向上させることができた。また、ラーニングストーリーBOOKを通して、“我が子のことを褒める機会が増えた。”“我が子が自信を持っているように感じる。”などの声から、保育者と保護者の連携が、こどもたちの「自己肯定感の高まり」に繋がっていることを感じている。

今後は、学期に一度のラーニングストーリーをさらに定期的に伝えることで、育ちを家庭で共有出来る機会を増やしていくことが課題である。

小学校とも、こどもの実態を伝え合うことで、こどもたちの目線に立ってねらいを見直した。それによって、こどもたちが学校に行きたくないなど思う日も「にこにこタイム」には参加しようとするこどもの姿や、小学校の先生方が「学校って楽しい！」とこどもたちが感じてくれていると実感されたことから、小学校とともに「あそびとまなびの連続性」を改めて感じている。今後も幼小でこどもたちの実態を伝え合い、お互いの教育方法を受け入れ合い、こどもの姿から就学後の姿を共に考え続ける持続的な幼小接続・連携を行っていきたい。

保育者、保護者、小学校との連携がこどもの育ちに繋がっていることを感じ、地域社会に開かれた質の高い教育への大きな一歩を踏み出すことができたのではないかと感じている。

令和3年度 持続的な幼小接続及び幼小連携についての概要

		目的	詳細	主催	日時 【令和2年度】	日時 【令和3年度】	会場	小学校 参加者	幼稚園 参加者
1	A見学①	・小学校の教育を理解する ・スタートカリキュラムを見学する ・就学したこどもたちの様子を見ながら情報共有を行い円滑に接続できるようにする	幼稚園の教員が小学校を見学 (にこにこタイム)	松崎小学校	コロナの為 無	4月30日(金) 8:05~ 9:15	松崎小学校	・校長先生 ・教務主任 ・1年担任	・園長 ・主任 ・幼小連携担当 ・前年度年長担任
2	A見学②	・小学校の教育を理解する ・就学後2カ月経過したこどもたちの様子を見ながら情報共有を行い円滑に接続できるようにする ・小学1年生のこの時期をみた上で、幼児期に必要なことを整理し、教育課程を見直す(幼稚園)	幼稚園の教員が小学校を見学 (5時間目) 見学後の会議 (A見学①の内容も含んだ会議)	松崎小学校	コロナの為 無	6月10日(木) 見学→13:55~ 14:40 会議→15:00~	松崎小学校	・校長先生 ・教務主任 ・1年担任	・園長 ・主任 ・幼小連携担当
3	A研修	・共通の知識を得て、小学校及び幼稚園の実態を知り円滑な接続に向けての育ちを考える	外部講師による講演及び話し合い	松崎幼稚園 ※講師費用園負担	11月13日	8月6日(金) 10:00~11:30	松崎幼稚園	希望者 (学年問わずできるだけ多くの職員が参加できるようにする)	
4	就学時検診	・心身両面にわたる入学児童の状況を把握すると共に入学への諸準備と心構え等について保護者の関心を高める	検査項目 内科、耳鼻科、歯科、眼科 視力、聴力、身長、知能	防府市	12月10日	10月~12月 (2学期以降決定)	松崎小学校	年長児 (松崎校区)	年長児 (松崎校区)
5	仮入学	・小学校内で過ごすことにより、新入学・児童が学校の雰囲気になれる ・交通教室を開催して、登下校の安全歩行と事故防止に役立てる	5年生と交通教室(新入学児童) 入学準備説明会(保護者)	松崎小学校	1月21日	1月頃 (2学期以降決定)	松崎小学校	・校長先生 ・教頭先生 ・教務主任 ・1年学年主任 ・外部	松崎校区年長児 職員1人 (資料送付依頼)
6	B研修	・小学校及び幼稚園が来年度のスタートカリキュラムの理解を深め、一緒に考える(A見学①も反映させる)	次年度のスタートカリキュラム についての話し合い	松崎小学校	1月22日 15:30~	1月21日(金) 15:30~	松崎小学校	希望者 (学年問わずできるだけ多くの職員が参加できるようにする)	
7	日程調査	・来年度の年間予定を見合わせる ・駐車場を貸していただく日を提案する ・反省を踏まえながら、次年度の幼小連携の年間工程を話し合う	次年度の日程を検討	松崎幼稚園		2月21日(月) 15:30~		・教務主任	・主任 ・幼小連携担当
8	幼小連携①	・特別支援の子の受け入れについて ・クラス分けについて	こどもの情報共有	松崎小学校	2月22日		松崎幼稚園	・1年担任	・年長担任
9	B見学①	・幼稚園の教育を理解する ・就学する前のこどもたち(特別支援の子も含む)の様子を見ながら情報共有を行い円滑に接続できるように準備する	小学校の教員が幼稚園を見学(AM1時間) 見学後の会議・幼小連携(PM1時間)	松崎幼稚園				・教務主任	・園長 ・主任
10	幼小連携②	・園児と小学校教員もしくは児童の交流を行うことで園児が小学校への期待を持つ	幼稚園の園児が小学校と交流	共同	3月1日	3月頃 (2学期以降決定)	松崎小学校	年長児 (校区関係なし)	年長児 (校区関係なし)

主催側の役割: ①内容検討 ②要項作成 ③各資料作成(案内文・講師依頼書・指導案・研修資料など) ④当日の実行 ⑤振り返りアンケート調査(作成・集計・分析・共有)

※小学校は毎週火曜日と水曜日が会議